

オークランドの自然災害に備えるために (在留邦人向け防災セミナーの開催:報告)

2026年10月6日、当館は、オークランド緊急事態管理局(AEM)のマリカ・クリシュナムルティ文化・言語多様性コミュニティ防災対策上級アドバイザーを講師に招き、オークランドで想定される自然災害、日頃からの備え、緊急時の避難や情報収集、本年10月21日に実施される全国地震防災訓練「シェイクアウト」などについて説明いただきました。

自然災害はいつ発生するかわかりません。今回のセミナーを機に、在留邦人の皆様にも、改めてご自身やご家族の安全について考え、日頃の備蓄や避難方法、緊急時の連絡手段などを確認していただければ幸いです。

また、災害などの緊急時に、総領事館から皆様に必要な情報をお届けし、安否確認や支援を円滑に行うため、NZIに3か月以上滞在される方は「在留届」、3か月未満の短期滞在の方は「たびレジ」への登録をお願いいたします。既に在留届を提出されている方も、住所や連絡先などに変更があった場合には、変更の届出をお願いいたします。

目次

1 オークランド緊急援助局(AEM)による説明

- (1) AEMの役割と地域コミュニティの重要性
- (2) オークランドで想定される自然災害
- (3) 日頃からの備え
- (4) 全国地震防災訓練「ShakeOut」
- (5) 災害時の情報収集

2 質疑応答

- (1) オークランドで火山が噴火する可能性はどの程度ありますか。
- (2) オークランドには、日本のような指定避難所がありますか。
- (3) 避難所では食料や毛布などを提供してもらえますか。
- (4) 洪水や地震などの危険地域を確認できるハザードマップはありますか。
- (5) 地滑りの危険性はどのように確認できますか。
- (6) 地域コミュニティはどのように防災活動に参加できますか。
- (7) 日本語の防災資料はありますか。
- (8) 高層マンションでは、停電時にどのように避難すればよいですか。
- (9) 学校ではシェイクアウトへの参加が義務付けられていますか。
- (10) 非常用持出袋は購入した方がよいですか。

(11) 停電や通信障害が起きた場合、どのように情報を入手すればよいですか。

3 セミナーを通じて

【AEMの説明の主なポイント(詳細は後述)】

- オークランドにはさまざまな自然災害のリスクがあります。洪水、暴風雨、地震、津波、火山噴火、地滑りなどが想定されます。特に、居住地域によってリスクが異なるため、自宅や職場の周辺にどのような危険があるか、あらかじめ確認することが重要です。
- 災害への備えは、一人一人と地域コミュニティの協力が基本です。AEMは消防、警察、中央政府等と連携して災害対応を行います。災害時には住民同士の助け合いが不可欠です。
- 自宅には3日から1週間分の食料や水などを備蓄しましょう。避難が必要になった場合に備え、非常用持出袋も準備してください。高価な市販品を購入する必要はなく、家庭にある物を活用できます。
- オークランドには、日本のような常設の指定避難所はありません。災害発生時に状況を判断し、地域の公民館等を避難施設として開設します。開設場所はAEMのウェブサイトやラジオ等で周知されます。
- 洪水の危険性は、オークランド市役所のウェブサイト「Flood Viewer」で確認できます。住所を入力することで、自宅周辺の浸水リスク等を調べることができます。
- 10月21日(水)午後1時30分から、全国地震防災訓練「ShakeOut(シェイクアウト)」が実施されます。専用ウェブサイトから参加登録できます。地震発生を想定し、「姿勢を低くする、頭を守る、つかまる」を実践します。
- 災害時には、信頼できる情報源から最新情報を入手してください。AEM、国家緊急事態管理庁(NEMA)、気象当局等が情報を発信します。停電や通信障害に備え、ラジオも重要な情報収集手段となります。
- 日本語で利用できる防災資料もあります。NZ政府の「Get Ready」では、日本語の防災計画作成資料を提供しています。家族や職場で防災計画を話し合う際に活用してください。

1 AEMによる説明

(1) AEMの役割と地域コミュニティの重要性

AEMはオークランド市役所の一部局で、災害への備え、緊急時の対応、災害後の復旧に関する調整を担当しています。災害が発生した際には、消防、警察、救急、赤十字、中央政府機関、民間団体などと連携して対応します。災害の種類によって中心となる機関は異なり、例えば大規模火災では消防が主導し、AEMは必要に応じて住

民の避難支援などを担当します。また、複数の地域にまたがる大規模災害では、国家緊急事態管理庁(NEMA)が全体の調整を担います。

一方、AEMが特に重視しているのが、地域コミュニティの役割です。

災害時には行政の支援が直ちに全員に行き届くとは限りません。まずは自分自身と家族の安全を確保し、近隣住民と協力することが重要です。オークランドは人口約170万人、その約4割が海外生まれという多文化都市です。AEMでは、それぞれの文化や言語に配慮しながら、地域コミュニティの防災活動を支援しています。

(2)オークランドで想定される自然災害

オークランドでは、次のような災害が想定されます。

ア 洪水・暴風雨

オークランドでは、近年、1月から3月にかけて暴風雨が発生する傾向が見られます。また、地域によって地形や気象条件が異なるため、洪水のリスクも場所によって大きく異なります。

オークランド市が提供する「Flood Viewer」では、住所を入力することで、その地域の浸水リスクや雨水の流れる経路等を確認できます。

イ 火山噴火

オークランド周辺には多数の火山があり、これらは「オークランド火山地帯(Auckland Volcanic Field)」を形成しています。将来、火山活動が起こる場合、既存の火山が再噴火するよりも、新たな場所に火山が形成される可能性が高いと考えられています。噴火場所を正確に予測することは困難ですが、マグマの上昇に伴う地震活動など、事前に兆候が現れることが想定されます。

火山に関する研究情報は、DEVORA(<https://www.devora.org.nz/>)で確認できます。

ウ 地震・津波

オークランド周辺でも断層が確認されており、地震のリスクがあります。また、沿岸部では津波への備えも必要です。津波の危険がある地域に住んでいる場合は、事前に高台への避難経路を確認しておくことが重要です。

エ 地滑り

大雨や洪水に伴って地滑りが発生することがあります。AEMIによれば、オークランド市議会でも地滑りの危険性について調査を進めています。

参考:<https://ourauckland.aucklandcouncil.govt.nz/news/2026/02/understanding-landslides/>

オ その他のリスク

異常高温、干ばつ、感染症の流行なども想定されています。

また、自然災害によって停電、断水、インターネットや電話の通信障害が発生する可

能性があります。こうしたライフラインが利用できなくなる場合を想定しておくことが大切です。

(3) 日頃からの備え

AEMIは、災害に備えて、まず自分自身や家族に何が必要か、どのような支援ができるかを考えることを勧めています。

ア 自宅での備蓄

災害時に自宅にとどまる必要がある場合に備え、3日から1週間程度の食料、水、その他の生活必需品を準備しておくことが推奨されています。

特に水は、普段あまり備蓄していない家庭も多いため、意識的に確保しておくことが重要です。

イ 避難の準備

災害の種類や状況によっては、自宅にとどまる方が安全な場合もあれば、避難が必要な場合もあります。

あらかじめ避難先を考え、家族や友人との連絡方法を決めておきましょう。

避難用持出袋については、各家庭の事情に合わせて必要な物を準備することが重要です。

ウ 地域とのつながり

災害時には、近隣住民や地域団体との協力が大きな力になります。

日頃から地域の人々と交流し、困ったときに助け合える関係を築いておくことが望まれます。

(4) 全国地震防災訓練「ShakeOut」

2026年10月21日(水)午後1時30分から、NZ全国で地震防災訓練「ShakeOut(シェイクアウト)」が実施されます。

この訓練では、地震が発生したことを想定して、次の3つの動作を30秒から1分程度実践します。

1. Drop: 姿勢を低くする
2. Cover: 頭や体を守る
3. Hold: 揺れが収まるまでつかまる

津波の危険がある地域では、実際に高台への避難経路を歩いて確認することも推奨されています。

この訓練は自主参加型で、当日、全国一斉の警報が鳴るわけではありません。

専用ウェブサイトから参加登録ができます。登録した参加者は、訓練の写真を投稿

するなどして参加することもできます。

ShakeOut 公式サイト: <https://getready.govt.nz/involved/shakeout>

(5) 災害時の情報収集

災害時には、不正確な情報や誤情報が広がるおそれがあります。

AEMでは、公式ウェブサイトや各種の情報発信手段を通じて、避難場所や緊急対応に関する情報を提供します。

また、気象情報については MetService、全国的な防災情報についてはNEMAや「Get Ready」など、信頼できる情報源を利用してください。

インターネットが利用できなくなった場合には、ラジオを通じて情報を発信することも想定しています。

2 質疑応答

(1) オークランドで火山が噴火する可能性はどの程度ありますか。

質問: オークランドで火山が噴火する可能性はどの程度あるのでしょうか。

AEM回答:

オークランド火山地帯には50以上の火山があります。将来噴火が発生する場合、既存の火山が再噴火するのではなく、新たな場所で噴火する可能性が高いと考えられています。噴火が発生する場所や時期を正確に予測することは困難ですが、マグマの上昇に伴う地震活動など、事前に兆候が現れると考えられています。

(補足)

NZ自然災害委員会によれば、今後50年間にオークランド火山地帯で噴火が発生する確率は約10%と推定されています。これは過去の噴火履歴などに基づく長期的な推定値であり、今後50年間に必ず噴火するという意味ではありません。

(2) オークランドには、日本のような指定避難所がありますか。

質問: 日本では学校や公民館などが避難所として指定されていますが、オークランドにはありますか。

AEM回答:

オークランドには、常時開設されている避難所はありません。

各地域で、公民館や市議会の施設などを、緊急時に市民防災センター(Civil Defence Centre)として利用する候補施設をあらかじめ選んでいます。

ただし、災害の種類によっては、候補施設自体が被災する可能性があります。そのため、実際にどの施設を開設するかは、災害発生時の状況を踏まえて判断します。

開設場所については、AEMのウェブサイトやラジオ等でお知らせします。
また、地域住民が自主的に運営する「Community Emergency Hub」と呼ばれる支援拠点が開設される場合もあります。

(3)避難所では食料や毛布などを提供してもらえますか。

質問： 避難所には食料、水、毛布などが備蓄されているのでしょうか。それとも各自で持参する必要がありますか。

AEM回答：

災害の状況によって異なりますが、必要に応じて基本的な食料や寝具などを提供します。ただし、提供できる物資は必要最低限のものとなり、すべての人の希望や個別の事情に対応できるとは限りません。

避難所で宿泊することも想定していますが、可能であれば、親族や友人の家などに避難することも検討してください。

(4)洪水や地震などの危険地域を確認できるハザードマップはありますか。

質問： 洪水だけでなく、地震や地滑りなどのリスクも含めて確認できる地図はありますか。

AEM回答：

以前は複数の災害リスクを確認できるハザードマップがありましたが、現在見直しを進めています。

現時点では、災害の種類によって異なる機関が地図や情報を提供しています。

洪水については「Flood Viewer」で確認できます。

(5)地滑りの危険性はどのように確認できますか。

質問： 地滑りが発生しやすい地域を示す地図などはありますか。

AEM回答：

オークランドでは、2023年の洪水の際にも地滑りが発生しました。

オークランド市でも地滑りのリスクについて調査を進めています。関連する地図や情報については、上記1(2)エのリンクをご参照ください。

(6)地域コミュニティはどのように防災活動に参加できますか。

質問： 災害時には、地域住民やボランティア団体が互いに助け合うことが重要だと思います。AEMでは、こうした地域の活動をどのように支援していますか。

AEM回答：

AEMでは、地域の団体が緊急時に協力できるネットワークづくりを積極的に支援しています。例えば、ある団体が避難場所を提供し、別の団体が食事を提供するなど、地域内で役割を分担することが考えられます。

AEMでは、地域団体向けのワークショップや研修を行っています。

また、地域の防災拠点の整備や防災教育などを対象とした助成制度「Te Ara Uru Tau」もあります。次回の募集は来年1月に開始される予定です。

地域のマラエ(マオリの集会施設)などとも連携しています。日本人コミュニティが地域のマラエと交流し、防災協力を進めている事例についても、ぜひ支援したいと考えています。

(7) 日本語の防災資料はありますか。

質問： NZ政府の防災情報サイト「Get Ready」には日本語の資料がありますが、どのように利用できますか。

AEM回答：

「Get Ready」には、日本語を含む複数の言語で防災計画を作成するための資料があります。

AEMでも、多言語で防災情報を提供できるようウェブサイトの改善を進めています。現状では、翻訳資料にアクセスするためにある程度の英語力が必要な場合もあり、改善が必要だと考えています。

また、英語の資料を単に翻訳するだけでなく、各コミュニティの言語や文化に合った分かりやすい資料を作成することも重要です。

日本人コミュニティからも、情報をより利用しやすくするための提案を歓迎します。

Get Ready: <https://getready.govt.nz/>

(8) 高層マンションでは、停電時にどのように避難すればよいですか。

質問： 高層マンションで停電した場合、エレベーターや電子式の出入口が使えなくなる可能性があります。特に高齢者や障害のある方は、どのように避難すればよいのでしょうか。

AEM回答：

高層集合住宅での避難は、AEMとしても懸念している問題です。

建物の管理組合(Body Corporate)などは、高齢者や障害のある方を含めた避難計画を準備する必要があります。

住民は、停電時に建物への出入りがどうなるか、エレベーターが使えない場合にどう避難するかなどについて、管理組合等に確認することが重要です。

特に賃貸住宅では、管理組合から所有者には情報が伝わっていても、実際の居住者に十分伝わっていない場合があります。こうした点も改善する必要があります。

(9) 学校ではシェイクアウトへの参加が義務付けられていますか。

質問： 日本では学校で定期的に避難訓練が行われていますが、NZの学校ではシェイクアウトへの参加が義務付けられていますか。

AEM回答：

シェイクアウトへの参加は自主的なものであり、学校に義務付けられているわけではありません。

ただし、学校には積極的な参加を呼びかけています。

AEMなどでは、子どもたちを対象とする防災教育プログラムも実施しています。子どもの頃から防災について学ぶことは重要です。

(10) 非常用持出袋は購入した方がよいですか。

質問： 日本では非常用持出袋が販売されていますが、NZでも購入できますか。

AEM回答：

NZでも市販の非常用持出袋を購入できますが、価格が高いものもありますので、AEMでは、必ずしも市販品を購入することを勧めていません。

必要な物の多くは既に家庭にあるため、それらを活用して自分で準備することができます。その方が、袋の中に何が入っているかも把握しやすくなります。

(11) 停電や通信障害が起きた場合、どのように情報を入手すればよいですか。

質問： インターネットや電話が使えなくなった場合、どのように災害情報を入手すればよいでしょうか。

AEM回答：

インターネットが利用できない場合には、ラジオが重要な情報収集手段となります。

Radio New Zealand (RNZ)をはじめ、オークランドの複数のラジオ局を通じて情報を発信します。

乾電池式、太陽光式、手回し充電式などのラジオを備えておくことも有効です。

3 セミナーを通じて

今回のセミナーでは、オークランドでもさまざまな自然災害が起こり得ること、また、災害への備えには行政機関だけでなく、一人一人の準備と地域の協力が重要であるこ

とが説明されました。

参加者の皆様からは、火山噴火、避難所、地域コミュニティとの連携、高層住宅の避難方法などについて多くの質問が寄せられ、セミナー終了後も活発な意見交換が行われました。

総領事館としては、今後もAEMをはじめとする関係機関と連携し、在留邦人の皆様に役立つ防災情報の提供に努めてまいります。

また、災害などの緊急時に、総領事館から必要な情報をお届けし、安否確認を行うため、3か月以上滞在する方は「在留届」、短期滞在の方は「たびレジ」への登録をお願いいたします。

※本記録は、10月6日のセミナーの記録に基づき、AEMの説明及び質疑応答を在留邦人の皆様向けに整理したものです。災害に関する情報や各種制度は変更される場合があるため、最新情報は関係機関の公式サイトでご確認ください。